

エコアクション21

環境活動レポート

2014年度

(運用期間：2014年4月～2015年3月)



共同技研株式会社

2015年5月22日

環境基本方針

I. 基本理念

共同技研株式会社は「産業と地球環境との調和」を掲げ、産業廃棄物処理業を通じて、産業活動による環境負荷の低減や、資源リサイクルの推進を目指します

II. 行動指針

以下の行動指針に基づき、環境経営システムを構築・運用・維持して参ります

1. 事業活動が環境に与える負荷を把握し低減させる

具体的には以下の項目に取り組む

(1) 二酸化炭素の排出削減

①車両の燃料消費量の削減 ②電力使用量の削減

(2) 廃棄物の排出削減

①廃棄物分別の推進 ②廃棄物のリサイクル推進

(3) 水使用量削減

①節水活動の実施

(4) グリーン購入の推進

①環境負荷の少ない製品・サービスの採用

(5) 受託した産業廃棄物の収集運搬における環境配慮

①顧客からの苦情ゼロ

2. 産業廃棄物排出事業者が与える環境負荷の低減を支援する

3. 環境関連法規をはじめとした、環境負荷に関する法令を遵守する

4. 社員全員が環境保全に対する意識と理解を持ち行動する

5. 環境方針及び環境活動レポートを開示し、透明性のある取り組みを進める

2012年6月8日 策定

2013年6月1日 改訂

共同技研株式会社 代表取締役 三條由博

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

共同技研株式会社
代表取締役 三條 由博

(2) 所在地

広島県呉市本通4丁目8番28号

(3) 法人設立日 平成12年5月19日

(4) 資本金 1,000万円

(5) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 取締役 酒木 悠次
TEL：0823-32-2711
メールアドレス：y-sakaki@kyodogiken.com

(6) 事業内容

産業廃棄物収集運搬業

(7) 事業規模

	単位	2012年度 (2013年3月)	2013年度 (2014年3月)	2014年度 (2015年3月)
売上高	千円	166,655	172,966	152,989
従業員数	人	7人	7人	8人
車両台数	台	4	4	4

(8) 事業年度

4月1日～3月31日
(※今回の活動レポートは2014年4月1日～
2015年3月31日)

2. 事業計画の概要

(1) 産業廃棄物収集運搬の全体計画

取引先企業の各事業場より排出される産業廃棄物を収集し、取引先処分(処理)場へ運搬する。

産業廃棄物の運搬にあたっては、事前に排出事業者と委託契約を締結する。この際、許可品目以外の産業廃棄物については受託しない。

産業廃棄物の引き渡しを受ける際には、紙マニフェストもしくは電子マニフェストの受渡確認票により、産業廃棄物の種類、数量等を確認する。また、それを運搬先にて回付する。

排出先との取引にあたっては、都度リサイクル率向上に向けた提案を行う。

(2) 休業日及び業務時間

休業日・・・日曜日、祝祭日、
その他会社の定める休日
(年末年始、お盆)

業務時間・・・1日あたり7時間

(3) 許可の内容

次頁に記載



◆産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号	許可自治体	積替保管の有無	取扱廃棄物の種類																許可年月日	許可有効年月日	優良認定									
			燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	動植物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	陶磁器くず	ガラスくず コンクリートくず	鉱さい				がれき類	動物の糞尿	動物の死体	ばいじん	産業廃棄物処理物	輸入された廃棄物	※備考		
3200076667	島根県	無	○	○										○													(石綿含有産業廃棄物であるものを含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く)	H23年 6月 14日	H28年 6月 5日	
3301076667	岡山県	無	○	○										○	○	○	○	○									(これらのうち石綿含有産業廃棄物を含む)	H25年 8月 28日	H32年 8月 27日	○
3409076667	広島県	無	○	○	○									○	○												(これらのうち廃プリント配線板、廃ブラウン管、鉛製の管又は板、廃石膏ボード、廃容器包装及び石綿含有産業廃棄物を含み、鉛蓄電池の電極、自動車等破砕物、判定基準に適合しないもの及び特別管理産業廃棄物であるものを除く)	H25年 1月 28日	H30年 1月 27日	
3500076667	山口県	無	○	○	○									○	○												(これらは石綿含有産業廃棄物であるものを含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く)	H26年 9月 30日	H33年 9月 29日	○
4000076667	福岡県	無	○	○										○	○												(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず等、がれき類については、石綿含有産業廃棄物を含む)	H23年 9月 7日	H28年 9月 6日	

3. 施設及び処理の概要

(1) 運搬車両の種類・能力

	車両形式	最大積載量 (kg)	仕様等
1	ダンプ車	10,300	水密仕様 土砂等積載禁止
2	ダンプ車	10,500	水密仕様 土砂等積載禁止
3	ダンプ車	10,700	
4	ダンプ車	10,400	

(平成 27 年 4 月 1 日時点)

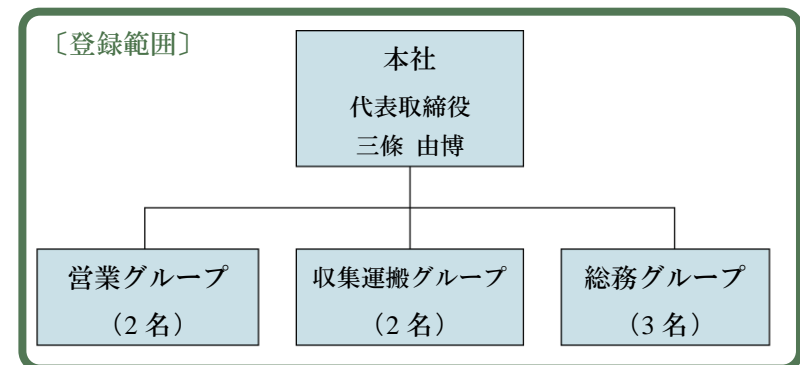
(2) 処理実績

品目	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
鉱さい	t	7,280.47	8,507.67	8,552.77	33,952.11
汚泥	t	4,789.89	3,724.03	5,257.14	3,838.94
燃え殻	t	146.95	8.53	28.12	533.71
ばいじん	t	47.85	43.73	91.85	87.57
がれき類	t	—	—	—	20.00
ガラスくず等	t	20.93	—	—	21.38
合計	t	12,286.09	12,283.96	13,929.88	38,453.79

4. 認証・登録の対象範囲

- (1) 対象事業者名 共同技研株式会社
- (2) 対象事業所 本社事務所
- (3) 対象活動 産業廃棄物収集運搬業

(4) 組織図及び登録・登録範囲



(平成 27 年 3 月 31 日 時点)

5. 環境目標と実績

(1) 当期間の環境目標と実績、及び中期環境目標

取組目標	単位	基準実績	目標			2014年度			
		基準年度 2012年4月～2013年3月	2014年度	2015年度	2016年度	実績	達成率	判定	
1 二酸化炭素排出量の削減									
1-1	二酸化炭素総排出量の削減 ※1 (軽油, ガソリン, 電力)	t-CO ₂	149	147 (-1.00%)	146 (-2.00%)	144 (-3.00%)	131	114%	○
1-2	ガソリン使用量の削減	ℓ	1,626	1,610 (-1%)	1,577 (-3%)	1,561 (-4%)	1,898	85%	×
1-3	軽油使用量の削減	ℓ	54,069	53,528 (-1%)	52,988 (-2%)	52,447 (-3%)	47,034	114%	○
2 自社発生廃棄物の削減									
2-1	自社発生廃棄物の削減	kg	174.47	162.26 (-7%)	158.77 (-9%)	157.02 (-10%)	89.41	181%	○
3 グリーン購入の推進									
3-1	環境ラベル認定製品の購入	品目数	5	20	25	27	58	290%	○
4 受託した産業廃棄物の収集運搬における環境配慮									
4-1	顧客からの苦情ゼロ	件	0	0	0	0	0	100%	○

※1 電力の二酸化炭素排出係数は中国電力 2010年度の0.728 kg-CO₂/KWhを用いた

※2 化学物質は取り扱っていません

維持管理項目	単位	実績 (基準年度)	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標	2014年度 実績	目標の達成率	目標達成判定
電力使用量	KWh	3,872	3,872	3,872	3,872	4,070	95%	×
使用水量 (総排水量)	m ³	29.00	29	29	29	28	104%	○

(2) 過去3年間の実績

取組項目		単位	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績
1 二酸化炭素排出量の削減					
1-1	二酸化炭素総排出量の削減 ※1 (軽油, ガソリン, 電力)	t-CO ₂	—	149	150
1-2	ガソリン使用量の削減	ℓ	1,772	1,626	1,579
1-3	軽油使用量の削減	ℓ	54,114	54,069	54,653
2 自社発生廃棄物の削減					
2-1	自社発生廃棄物の削減	kg	—	157.59	173.65
3 グリーン購入の推進					
3-1	環境ラベル認定製品の購入	品目数	—	5	19
4 受託した産業廃棄物の収集運搬における環境配慮					
4-1	顧客からの苦情ゼロ	件	—	—	0

※1 電力の二酸化炭素排出係数は中国電力 2010 年度の 0.728 kg - CO₂/kWh を用いた

※2 化学物質は取り扱っていません

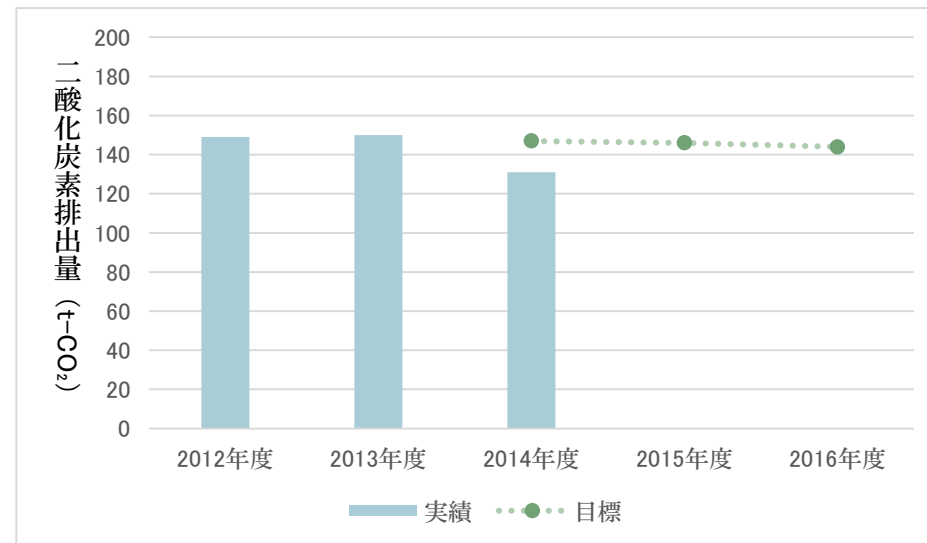
維持管理項目		単位	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 目標
	電力使用量	KWh	4,664	4,257	3,911
	使用水量 (総排水量)	m ³	27	32	29

6. 当期間の環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

活動項目		責任者
1	ガソリン使用量の削減	酒木
2	軽油使用量の削減	酒木
3	電力使用量の削減	酒木

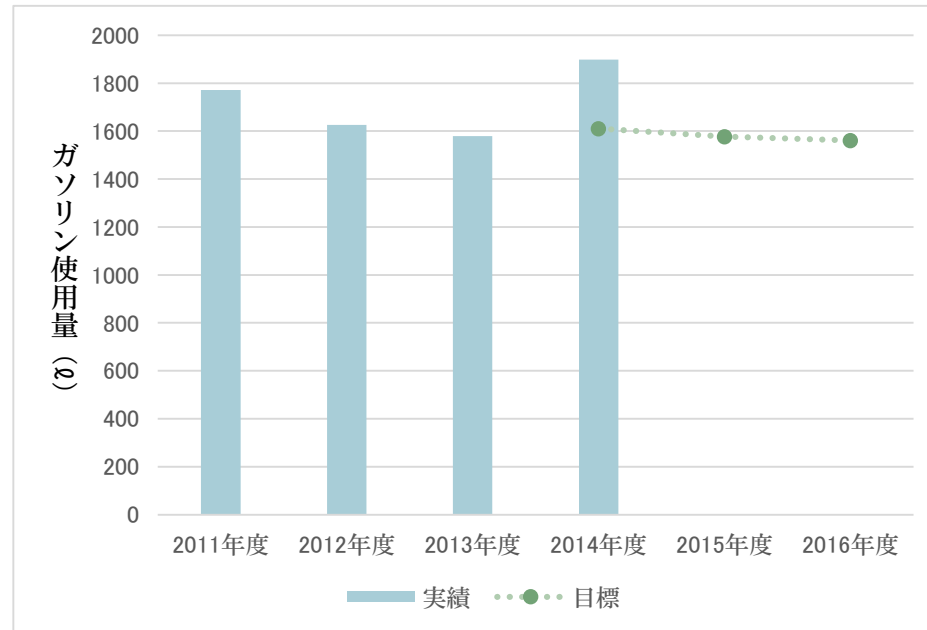
	単位：t-CO ₂	
	目標	実績
2012年度	—	149
2013年度	—	150
2014年度	147	131
2015年度	146	—
2016年度	144	—



(2) ガソリン使用量の削減

活動項目	責任者
1 ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車等の低公害車への切り替えを進める	酒木
2 急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等エコドライブを励行する	酒木
3 排ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な車両整備を行う	酒木

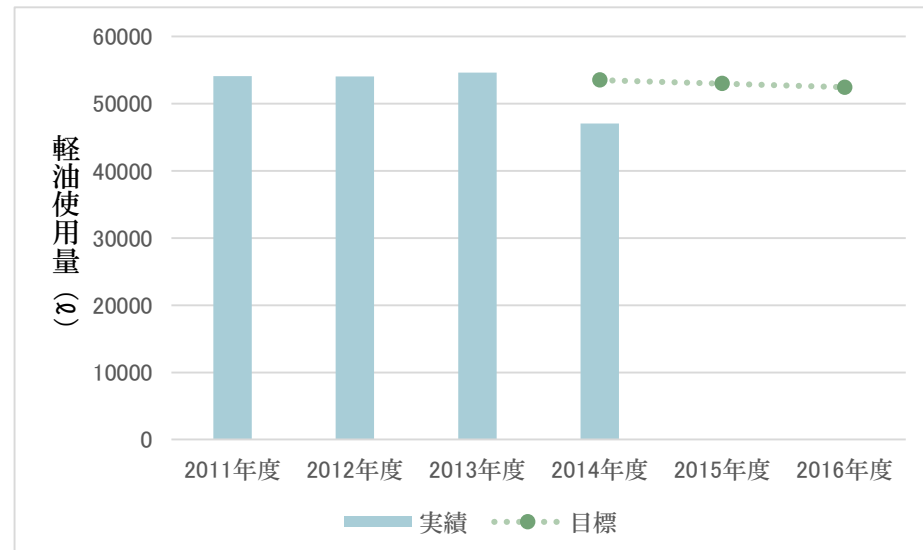
	単位：ℓ	
	目標	実績
2011年度	—	1,772
2012年度	—	1,626
2013年度	—	1,579
2014年度	1,610	1,898
2015年度	1,577	—
2016年度	1,561	—



(3) 軽油使用量の削減

活動項目		責任者
1	運搬道路選択時には渋滞等の道路状況を考慮する	酒木
2	日常的に大気汚染防止への配慮（燃焼管理等）を行う	酒木
3	大気汚染の少ないプロセスや機器を採用する	酒木
4	収集運搬車両購入の際、排ガスレベル、燃費、リサイクル素材の使用等を考慮する	酒木
5	作業時間や待機時間、走行距離の短縮化を図る	酒木
6	収集運搬取扱量の平準化を行う	酒木
7	運搬経路選択時には、幅員、渋滞等の道路状況を考慮する	酒木
8	排出事業者の排出状況、運搬先の処理施設状況を把握し、適切な収集運搬計画を立て、実行する	酒木
9	廃棄物の種類、性状、排出量を把握し、適切な収集運搬機材の選出等を行う	酒木
10	急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中でのエンジン停止等、エコドライブを励行する	酒木
11	デジタル式運行記録計、ドライブレコーダー等エコドライブ関連機器を導入する	酒木
12	タイヤの空気圧を定期的を確認し、適正値に保つ	酒木
13	排ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な車両整備を行う	酒木

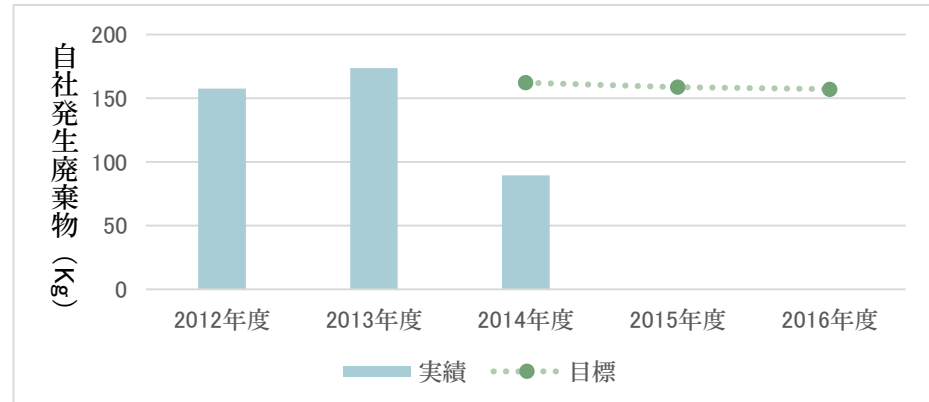
	単位：ℓ	
	目標	実績
2011年度	—	54,114
2012年度	—	54,069
2013年度	—	54,653
2014年度	53,528	47,034
2015年度	52,988	—
2016年度	52,447	—



(4) 自社発生廃棄物の削減

活動項目	責任者
1 会議用資料や事務手続種類の簡素化に取り組む	滑
2 両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底	滑
3 使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用するよう工夫	滑
4 使用済み封筒を再利用する	滑
5 使い捨て製品の使用や購入を制御する	滑
6 リターナブル容器に入った製品を優先的に購入し、使用する	滑
7 再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用する	滑
8 コピー機、パソコン、プリンター等について、リサイクルしやすい素材を使用した製品を購入	滑
9 詰め替え可能な製品の利用や備品の修理により、製品等の長期使用を進める	滑
10 簡易包装のものを優先的に購入	滑
11 OA 機器等の故障時には、可能な限り修理することで長期使用に努める	滑
12 コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確立し、リサイクルを図る	滑
13 紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等により、ごみの分別を徹底する	滑
14 シュレッダーの使用を精密文書等に限り、シュレッダー処理紙のリサイクルに努める	滑
15 発生したごみは、可能な限り圧縮等を行い減量する	滑
16 部品の再使用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用する	滑

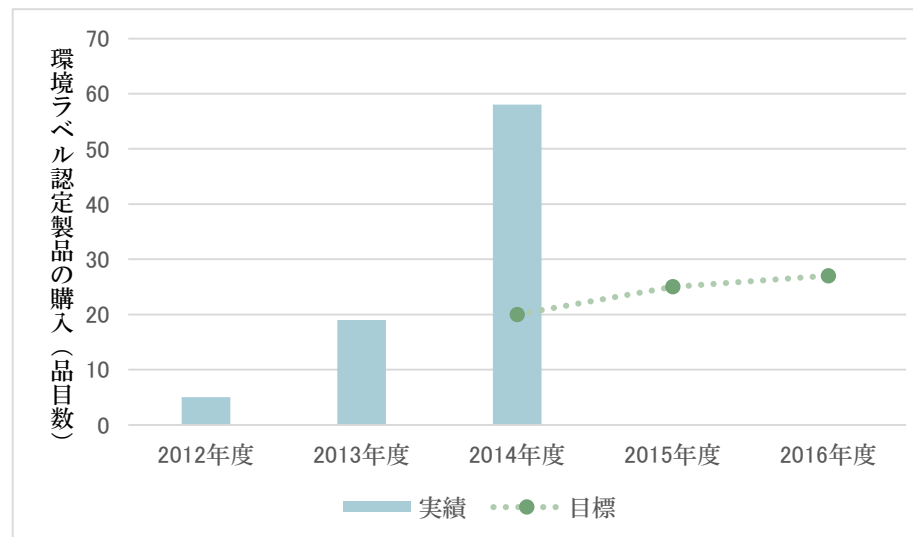
	単位：Kg	
	目標	実績
2012年度	—	157.59
2013年度	—	173.65
2014年度	162.26	89.41
2015年度	158.77	—
2016年度	157.02	—



(5) 環境ラベル認定製品の購入

活動項目		責任者
1	カーボンオフセットに取り組んでいる商品やサービスを購入または使用する	滑
2	製品購入の際には、できるだけ HCF、PFC、SF6 等を使用していない製品を選ぶよう配慮する	滑
3	環境に配慮した物品等の調達に係る方針、基準等を作成する	滑
4	環境ラベル認定製品を優先的に購入する	滑
5	省エネルギー基準適合製品を購入する	滑
6	再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する	滑
7	間伐材、未利用資源等を利用した製品を積極的に購入、使用する	滑
8	無漂白品、水性塗料等の環境負荷の少ない製品を優先的に購入、使用する	滑
9	コピー用紙、コンピューター用紙、伝票、事務用箋、印刷物、パンフレット、トイレトペーパー、名刺等の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を図る	滑

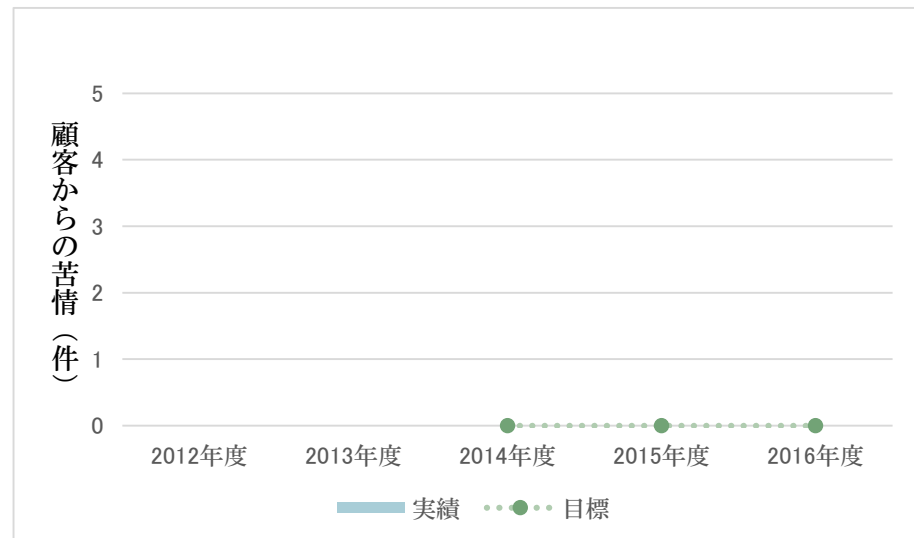
	単位：品目数	
	目標	実績
2012 年度	—	5
2013 年度	—	19
2014 年度	20	58
2015 年度	25	—
2016 年度	27	—



(6) 顧客からの苦情ゼロ

活動項目	責任者
1 外部関係者の意見聴取する窓口を設ける	酒木
2 外部からの情報提供、公表依頼に対する窓口を設ける	酒木
3 消費者等に対し、情報提供や啓発活動を行う	酒木
4 意見聴取を定期的に行い、環境への取組の際、考慮する	酒木

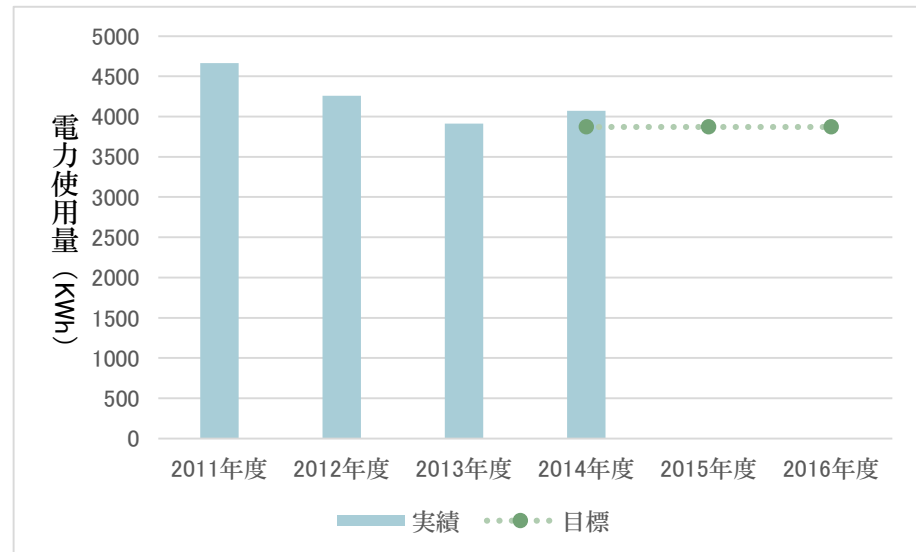
	単位：件	
	目標	実績
2013年度	—	0
2014年度	0	0
2015年度	0	—
2016年度	0	—



(7) 電力使用量の削減

活動項目		責任者
1	夜間・休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切る	滑
2	事務室の照明は、昼休、残業等の不必要な時は消灯	滑
3	トイレ等の使用頻度の低い照明は、普段は消灯し使用時のみ点灯する	滑
4	空調の適温化を徹底（冷房 27 度程度、暖房 21 度程度）	滑
5	使用していない部屋は、空調や照明の電源を切る	滑
6	クールビズやウォームビズにより、冷暖房の使用を抑制	滑
7	冷暖房終了時間前に熱源機を停止し、装置内の熱を有効利用	滑
8	外気温が概ね 20 度～27 度の中間期は交換器のバイパス運転を行う。また窓の開閉等により外気を取り入れる量を調整して室温を調整する	滑
9	照明器具については、定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理する	滑
10	冬季以外は給湯を停止する	滑
11	空調機については、フィルターの定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理する	滑

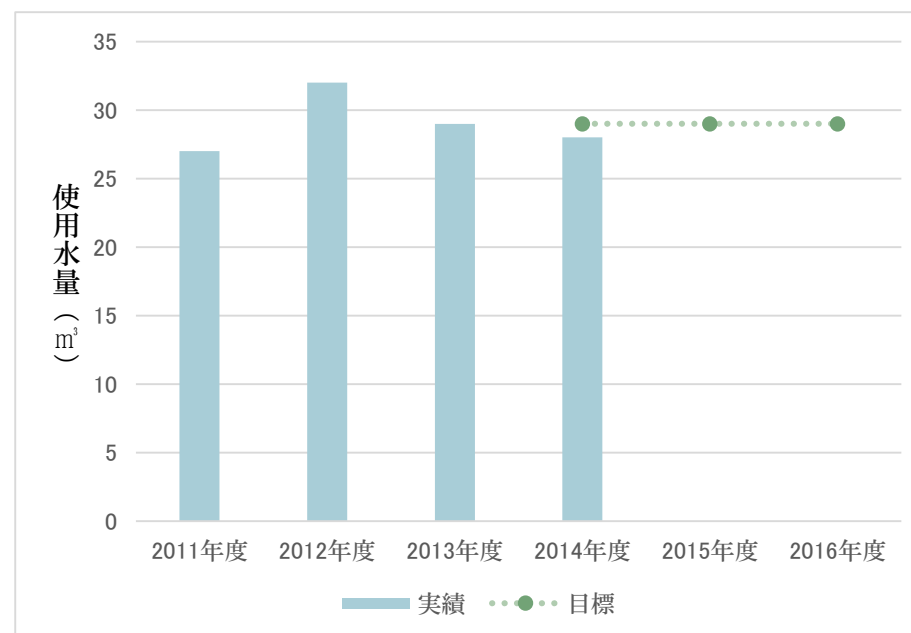
	単位：KWh	
	目標	実績
2011 年度	—	4,664
2012 年度	—	4,257
2013 年度	—	3,911
2014 年度	3,872	4,070
2015 年度	3,872	—
2016 年度	3,872	—



(8) 使用水量 (総排水量)

活動項目		責任者
1	手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行	滑
2	水道配管からの漏水を定期的に点検する	滑
3	社用車の洗車を最低限に留め、洗車する場合は節水を励行	滑
4	節水型の家電製品等を積極的に購入する	滑

	単位：m ³	
	目標	実績
2011年度	—	27
2012年度	—	32
2013年度	—	29
2014年度	29	28
2015年度	29	—
2016年度	29	—



7. 環境活動計画への取組結果と、翌期の取組内容

取組目標		取組結果の反省と翌期の取組内容
1 二酸化炭素排出量の削減		
1-1	二酸化炭素総排出量の削減	対目標 113%となり目標達成した。割合の大きい軽油の使用量が減少したためであるが、ガソリンの使用量が増加したのでどちらもエコドライブを定着させ、翌期は少しでも削減するよう取組んでいきたい。
1-2	ガソリン使用量の削減	対目標 85%と目標達成とならなかった。出張などの増加によるものだが、さらに見直すところがないか追究し少しでも削減できるよう、車両整備やエコドライブなどより一層改善を目指し翌期も取組んでいきたい。
1-3	軽油使用量の削減	目標達成となった。引き続きドライバーの意識を高め、適切な車両整備、エコドライブに努める。翌期はさらに削減出来るよう取組みたい。
2 自社発生廃棄物の削減		
2-1	自社発生廃棄物の削減	目標達成となった。なかなか削減出来なかった廃棄量が減少しており、資源回収などのリサイクルに取組んだ成果がみられる。翌期も廃棄物が減らせるよう範囲を広げて取組みたい。
3 グリーン購入の推進		
3-1	環境ラベル認定製品の購入	環境ラベル製品を調べて購入するように努めている。環境配慮された商品（グリーン購入サポート）を検索しながら購入できるので翌期も活用して環境ラベル製品の購入を増やしていきたい。
4 受託した産業廃棄物の収集運搬における環境配慮		
4-1	顧客からの苦情ゼロ	苦情はなかったが、コミュニケーションを取りながら情報提供を積極的に行い、隠れた不満がないか確認していきたい。翌期も苦情ゼロを目指していきたい。
維持管理項目		
	電力使用量	今期の目標値には未達成となった。社員が増えたことが一因となっていると思われるが、エアコンをなるべく利用しないよう、夏季は自然換気を冬季は熱損失の抑制（暖気・着衣）に取組みたい。
	使用水量（総排水量）	目標使用水量は達成することが出来た。下半期に取組んだ事を継続し、意識を保ち翌期も維持できるよう取組んでいきたい。

8．環境関連法規の遵守状況、及び訴訟の有無

環境関連法規の遵守状況をチェックの結果、過去3年間違反はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去にありません。

9．代表者による全体評価と見直しの結果

現代社会の環境問題は、私どもの微塵なものになっております。

微力ながらも社員一人一人が今なにをすべきかを考えて行かなくてはなりません。

弊社は運搬業者でもあり新規性に適した車の入れ替えにより、CO₂、NO_x、Sox、HCの削減に力をいれていきます。

またこれからも、事務所の効率化をはかり環境に優しい事務所として事業を進める所存で在ります。